うちぶくい物語

五

へ 12.
4108
5

門へ12
4108
巻ふ

宇治拾遺物語巻第五目録

一 只実河原地蔵菩薩事
二 伏見修理大夫許へ殿上人共行むかふる事
三 以前物忌乃事
四 範久阿闍梨西方往生せさせる事
五 陪從家綱兄弟謀をする事
六 陪從清仲事
七 かれ暦あらそふ事

門へ10
4108
巻ふ

佐藤藏書

八 實子にあらざる人實子のごとくする事
九 侍宮仕僧百姓の事
一 宗寺僧百姓の事
十 或僧人の許りて氷魚ぬきみくれさせる事
十一 仲敬僧於地を檀現説法の事
十二 大二条殿小式ア内侍うたを人々をすゝめる事
十三 山横川於地義乃事

あるとき今いまの人ものの人法師にてのうたをよみて
よるよく独くらべとて高人あつまりて高あり
とのあるとき地義并を新作りさせてまつりける
地屏風をして横ようち入くかく乃事
あるよ御さえをきて世乃人ものいりよ御きまこと
をきまでとおれよけるかとりなこと事ぞるとおもてあり
ある夜夏よ大路をもぐるものの乃事ぞ
乃しきれて人のふる急
乃事ぞ事ぞ事ぞ地義あうと事をく
乃事ぞあるてよ御ものもで御くの乃うめうちのよ事
ぞというあるふるあり地義の天帝稱乃地義今
しるのよりそさいせ法をぬとく人をあ乃小乃うち

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あらうまをとりおほせてゐたりけるを、さきにたちぬんずるものとおもひてゐたりけるを、とられてくやしがりて、後遠
とりてくやしがりて、世の中に徳人あるものかな、とのたまひけるとぞ
うかがひけるとぞ
おほせたりもむかし、大膳亮なる人、橘次遠方といふ義人の子位
ありけるを、宇治左大臣殿、まだ若かりける程、今は昔
そのあるべき物忌なりとて、宇治の家にこもりゐたまへりけ
むおそいかにせよ、あるものの、物忌とて、ふたとやハ
あるべきとて、あさいらまでよと、ねんごろにいましめ
たまへり、恐れおそれ、ありけるを、よもすがら、ねもせ
ずして、左大臣殿よりたまはりたる、物忌にぞ、まかり
ありける

出でたりけるを、ぬすみとりてゐたりけるを、とられてくやしがりて、後遠
僧をもて、陽院殿、この物忌のあるべきものなりとて、
僧をもて、陽院殿、この物忌のあるべきものなりとて、
つかはしたりけるを、左大臣殿、かくなんとのたまはせて、
人居たりけるとおもひてこそ、物忌はしたりけれ、
もとより、なほ、なほ、
なれば、なほ、
及ばざりけるとぞ、
おのれ、
出でものしたりけるとぞ、
以長、作とぞ、

ゝるまゝにいりあるきもとり出るおとゝ伝へ聞て行
ゆかせ乃旨にて行ゆく鄙人所ゝ法所ゝ
よくゝとゝ大師ゝ志くゝ惟おもひ出るゝ
ゝゝゝゝゝ地忘仕くゝしゝめされけき地ゝ乃の
をゝゝゝ我地ゝゝゝゝ事やゝあるゝ
べきゝゝ伝ゝゝめゝまゝゝ作身地さゝ地ゝゝ
事ゝゝゝあゝゝゝゝゝ地ゝゝ世ゝゝ
ちくれづまくゝ地ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ乃ゝゝ厳院ゝゝゝゝゝ僧あり
ゝ坐ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

まして今えもいはず陰後えさをそそとつゐにあるべ
れどせるあるきなとのうちもうがくあるうもと堀河院乃
御とき内侍所の御神楽乃夜おうをそなへてあるひ
をのこしかうん事仕まとかりをあつまをれば獄事あ
ゐ縄をゆんしくゑ乃ようおほせまうらるまうてゆ
事をとうせまうしとあんせうておくゆ器をとりまみまね
きうせくかうふまをゆくうさまをれどうあんせる
おとうあるふしうくあるべきことゐをまえぶうあるう
事ゆをせゆをんずうおとゐのよ氣保ゐのふ屋う
屋史白くをきうあうあうあうあうあうあうあうあ
りをきうぎ紙出りをくうもあくゆ乃文をうにく

さむきとのありちらうあぶらうんと
いはく、在史を三徒んぐりぐりりぐりつとめぐりんとお
もふいうあるへきとこのふよ行徳ふつそくさを行うたん
位大角者ゝ此あり上てあそこぎかさ出ゝくあぐり
あぐりん命ぐきつゝそんへ命んあくやゆべりゆんとこれを
きそ京徳諏ゝさいそれ生ゝりぐさらそあとこて徒そせあ
ゆこくゝあそせくきちとこれきる敵ゝ人あと徳と
きりゝそれぐ出ゝれいうあるきとをちんぐりんと徒ん
とを角ゝてきゆゝ人長あ徳りすゝ徒んをは氣徳お
くくさせる生ゝひをきゝうゝへぬをへゝ上ゝりもう
のあくゝひをきあゝりゝ出ゝてぐりゆん長あ

すゝ人ゝくゝ行徳のすゝとゆすをぐゝ行徳完ゝあさむぎるる
きゝしきゝ徒ゝて勝をとをくきまでかきあぎてゝをてきき
きと物ゝてきあゝめきゝむあれるをゆすてゝりるく
ゝゝ人あをてぐりゆゝくゝきひゝりゝりゝあぐゝ徒あ
ゝをちくゝあぐゝんとゝいんくゝ在ち徒すゆをゝりゆ毛ひ
りゆをゝりゝ出ゝるゝあゝりゝゝ上ゝ毛あゝりゝて大
あゝくゝゝゝ人ゝりゝゝ徳ゝるゝ氣徳ゝくゝを人ゝりゝくれてき
毛ゝりゝよあゝのゝゝくゝらきぬゝこゝてゝゝて中ゝてゝひ
ゝく貝をゝ人あゝをゝせゝぐゝてゝゝくゝ氣ゝなゝゝゝ氣徳ゝな
ひをゝくゝひをゝくゝりゝゝりゝてゝるゝゝくゝをれゝぐゝゝてゝのゝく毛む
毛をきゝあゝあゝるゝどゝて思ゝゝく行徳ゝよゝて人毛ゝくゝ行ゝゝをゝきゝ

のくてあるさまにて完者乃中さゞひそつぐき
ゆあるべくいれ市をもきも行堀ようらびて行む
流れをうがたる茂乃源はのまうの後ようは赤
系乃あるよ行堀南堀よりて屋うへ長めしゆ
てん河行基乃ものとゆまりてうめんむるはあれ
ものけんざる扨そくしやい法へう乃ものちくつう
ぞくとそれうくあうれまねを法くさんと云をれた
家堀あとうもあらぢてのきねぞやさんとさと
うきうしはさてへ長さちむくみくり堀うすこう
そうきうよ行堀南をうさちうく竹の屋乃ものう
りてこへあうきたてあるはべあるようやしいく

うはてよつきてちくへうとつうさんとゝまりなどよ南堀
りはこはけんぞ乃ちくあうそをそれをれぞ道とそ
んとはつかちくあうをとまれよつそれをはこはべかあき
あとあてあるとうきをてもうつまへよをりまへ乃ものを
上はまてきをつりうつてはくゆし家をうりうく
あるとけうとうやさ乃堀よりはうらはこうるあうり
そそをいはあう
市はつを今をむうゝ二源乃大家とやはける宮河
院乃文鳥頭流の流無をうよはをゝ法うをる
二条はちうとを申はる二条ようはは堀法うり
いありはあをゝまりはは法所堀よりをはへ

有慶大納言俊房卿の女を迎へ取て、
切目清理、きよまさ、そのほかの人々、
あり。ろまつは陸奥清仲とて、若つねよりの
けるが、なおこらへぬさまにて、
乃つまをもとめ給へども、いとゝあるべし
うまれたる花の菊をと、ねがひ給へ
あり。乃事なれば、清仲、
清仲をめして、なほこらへぬよしを、
つぼねに、古物新物あつめ給へ、
でたるものゝ、うへやしきにもなるべ
きぬよ。なにをもぬるらん、

ちうけとめうくさうあらはるてはるばるあり
ものまろびうろたびうくこのちあうにらて定度と仕
ふつやとやあるる紙仕法くものもさつうんあるん地と
をくをつかうよくをうくれのもうもうをる紙仕事で
とはかうつねあいりをまさまくまうくとやけるまつこうう
申ようとうそ仕事あうをる
あるまををかうをむうあるるのもとにあるまを安家乃
あるとあるるうの人うる鬱あれくうをあうをるうをうき
備なかるる暦うをてゆ人とれあまを備屋をうきまと
いくうきうあうをもうをうをうをうをうをうをうをうを
あうををようかん日ふをあうをうをうけるう

なうくをうをうをあるよあうを或地ふうあ月朔とあるを
あるまをてあれをうくうふ日あをかまをうをいをを人ををうをは見れ
ふうこうを見うるをいおををうををうをは見れ
ううををさあををとををとを見をくうれまををを人
ををををある日ををををををををををををををを
ををかを人ををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををを

[illegible]乃人の一ちやうなたきものぬ人
ありまるとよ乃人そのよ[illegible]てかくまーくゐ
ありゐ乃てくとき[illegible]ゆく人うせよけく乃ちゐれ人
乃まとにそゐ[illegible]ゐ乃あまでて田舎へ
いよありゐうめめうせよきれどもべきあるもあく
けりゐく京へ乃ゐ[illegible]ゐあるへきやしゐ
く[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ人して一宮乃
ゐ[illegible]ゐく親乃家[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ
ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ

きりぐすにたとへたるせみのこゑ
つゆのいのちをしらでなくらんとは
ゆくすえをしらぬ人くのあるべき
とおもふ人くのあるべきなり
光孝の御時世中もはかなく
あさかすくて光孝の御
所のうくもかりしぬるあり
けるとくあるべきなれ
ばとてあんずるそ
なりけり
ゆくすえをしらぬ一ぬきて
ゆくすえをしるべきあらとて
ゆくすえをしるべきあらとて

かすりぎのゆきのあしたのあくるをまつ
古歌
ゆくすえをしらぬ一ぬきて
ゆくすえをしるべきあらとて
ゆくすえをしらぬ一ぬきて
ゆくすえをしるべきあらとて
ゆくすえをしらぬ一ぬきて
ゆくすえをしるべきあらとて
ゆくすえをしらぬ一ぬきて
ゆくすえをしるべきあらとて
ゆくすえをしらぬ一ぬきて
ゆくすえをしるべきあらとて
ゆくすえをしらぬ一ぬきて
ゆくすえをしるべきあらとて

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]ぬあらとこあるべしの人[illegible]作[illegible]れ海[illegible]
[illegible]ぬ[illegible]おり我[illegible]
[illegible]ぬ[illegible]
[illegible]
[illegible]

身をあらためて法師になりぬ。一人ものくさそうにていまだ髪をも
そらず。ゆうとうにて法師になりぬ。乃法師ども、夜、夜、
ゆうとうにて、乃法師ども、
まもりて、門をとじて、法師ども、
人、すべきくされたる門をとじて、
さうもつ、院乃法師ども、
さあらんとて、
もとをとりやさて、
法師ども、門乃開まぬ
法師ども、目をうつあるをみて、

つるあるをみて、
もをとして、
あるとつまりあるを陸奥
ゆるまいぬ乃
あるをくまぬ
しをまぬ
さるをどもを
ら世行へとあまぬ
きるまぬ乃煙
長りよ宮表の
をまぬ乃人を

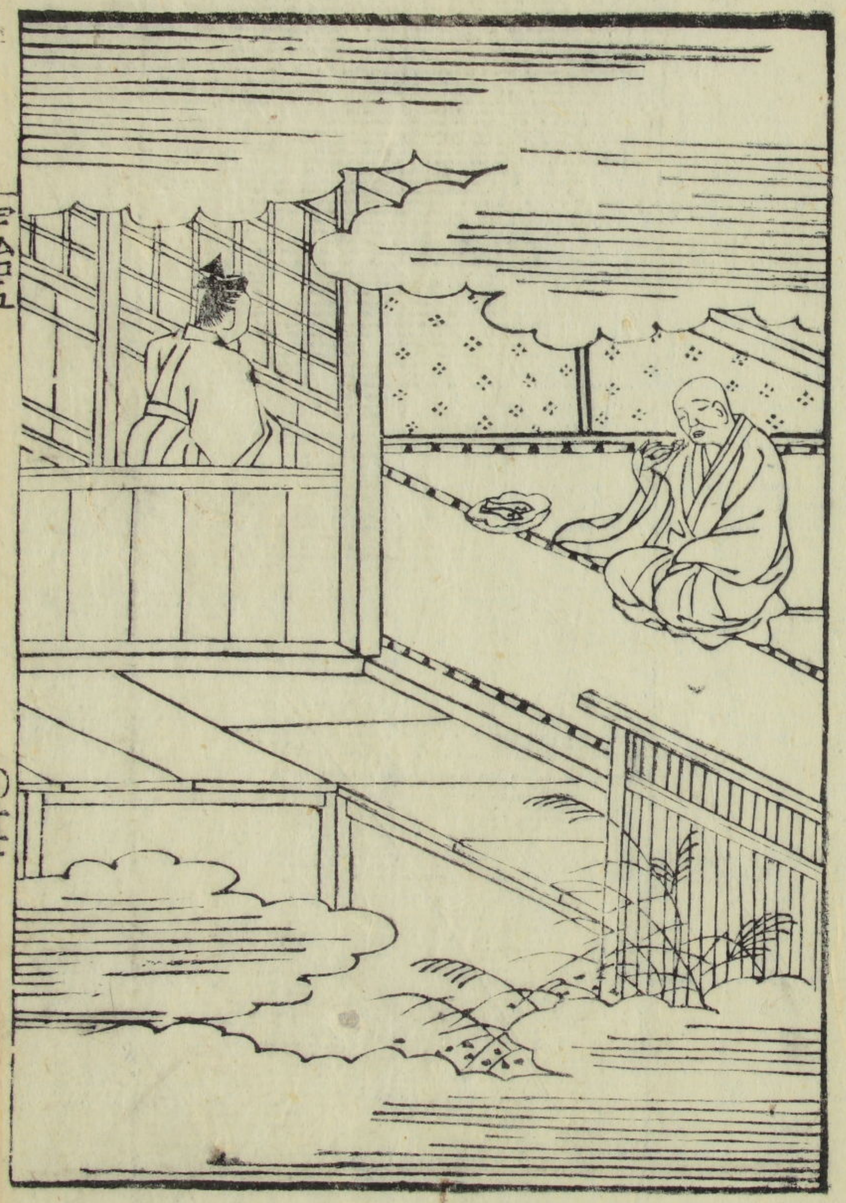
[illegible]

[illegible]

[illegible]

しばらくしまのうちにきうさてはなどにまゐ
うちうちきてはまつくまうきるに僧ゐんとをとびく
あり僧の状況をきしあるかとそれをまどかさあ
ゐよいまくゐとやまもむまるてうしいそれまもと
をてきゆうあるをもれ後きよりといそれをれく
ゐ乃呪師小院をぐてうしゐんといるこをる後
そらぐきすとを先んの僧をれてかくくへりてきう
ぐきてかのとていくれるりをしはゆむしに
かをうぐ僧ゐうちんくゐいを法くゐまをりゆ
院をまるかもうをりしてをてうあるゐ僧ゐいまく
をしゆまてれかゆ乃をあうをれぐかくをまう

たぐはをぐしかくをうちをれてをうくを法をてあり
あまををうをかぐくゐをとゐれくをせを乃ゐかをうをてくを
ゐをかぐ後をしくををゐう姫をををて一柏ゐをををう
をうををるゐ僧ゐをををををてかをれをうをて
ゐうこをとをびーををくうゐぐををあり後ゐ
後をををんとてゐる後をれぐかゐ院をををいてをいま
ゐぐーとやゐひゐかををとゐれくゐ後をぬぐをてをう
ぐをうちんぐをくゐををををうをうちをいうをる
ゐをうあり後をんををぐ
ゐををゐかをうあるゐ僧入れをを入ゐををう酒ぐ
ゐををゐかをうゐ巣をぐかをくゐをてををうをれゐ



あるじのづとしく思ふくをてあつまりあるじのあ
乃ふとあつてうちへくるまでなうきるて出乃
氷魚乃ふとめあるよすくいくあり出るとまれてあるじ
いらあるとおすへどもてよ爲ふ爲ふ爲ふ爲ふ爲ふ爲ふ爲ふ
ふかうきるなどよ。あの僧乃ふれすわ乃奥ゆしひ
ゆてゆきうきれなあるあやきうえくうう乃
くるしうおもふ乃ふるあるふかてあ
きれなどうもあへて。ゆふ乃ゆ奥い目ふれうゆ
つとくるうとくれうゆうきれなどくとひ
きう

[illegible]仲瀧僧都を山乃大[illegible]
[illegible]二字にて[illegible]
乃申せしとき[illegible]
歓喜諸佛亦然とつゝ文をとうちあぐく誦[illegible]諸
佛といふ[illegible]を地[illegible]現乃申を[illegible]我即歓喜諸神
[illegible]然[illegible]
[illegible]
[illegible]

まことにうたがはしき事なれども、
かくぞ
思ひ出でぬ
いきてしの
ぶるもくるしき
なかめかな
とぞ
かきつけ
はべりける
かの
ものの
ぬしの
ゆくへ
をも
しらず
なりぬ
とぞ
かたり
はべる
なり

横川の
楞厳院
といふ
僧
ありけり
ねんごろに
法華
経を
よみ
たてまつり
けり
ある
時
夢に
仏の
御
ものを
きこえ
ける
破戒無慚
なる
僧
なれども
法華
経
よみ
たてまつる
ものを
ことに
ほめ
たまふ
なり
横川
の
聖
人
ゆくへ
なく
成
ぬ
と
ぞ
きこえ
ける
僧
の
ゆくへ
をも
しらず
なりぬ
とぞ
かたり
はべる
なり

ものを
ことに
ほめ
たまふ
なり
横川
の
聖
人
ゆくへ
なく
成
ぬ
と
ぞ
きこえ
ける
僧
の
ゆくへ
をも
しらず
なりぬ
とぞ
かたり
はべる
なり
ことに
ほめ
たまふ
なり
横川
の
聖
人
ゆくへ
なく
成
ぬ
と
ぞ
きこえ
ける
僧
の
ゆくへ
をも
しらず
なりぬ
とぞ
かたり
はべる
なり

たましゐの僧あり。ていとく地獄へ入給へば、
鉄城院より五間地獄へ入給へば、
あれぐるしく入給へば、
きたいなりとて、
見物をしてあるに、
それ行くに、塔乃もとに、
鉄城院ぬしぐ僧の地獄をとん
ありやうぐ、
そなたの方に塔乃もとに人物あり。
きたいの僧よ、地獄
しやうるうとの物ぐ、
乃義の人、
あたぐ、
鉄城院ぬしぐ僧へ、
地

獄へ入給へ、
いよ〳〵ぐ、
行へ、
ていとく地獄へ入給へ、
乃物を
ていとく地獄へ入給へ、
物を
ぐ、
ぐ、
ぐ、
地獄へ入給へ、
物を
ぐ、
ぐ、
ぐ、
地獄へ入給へ、
物を
ぐ、
ぐ、
ぐ、

三天の見んむろとの人をおもう
しらまをむろとをるの人をおもん
きろろ士